



教会テーマ『勇気と寛大な心をもって出かけて行きなさい』(教皇フランシスコ)―「ミッション2030」―祈りを深める

■ アンケート協力をお願い ■

教会報 (マジス) についてのアンケート用紙と回収箱を

10月28日 (土) から11月26日 (日) まで

主聖堂前室、信徒会館事務室脇に用意いたします。

みなさまのご意見をお寄せください。

福者高山右近：イグナチオの霊性を活かした指導者

高山右近が亡くなって400年が過ぎた今年に彼の列福が行われたことについて、質問されることがあります。それは、現代の教会にとって、高山右近というより身近な人の生き方が模範と励ましになっているからにはほかなりません。彼の名前はよく知られているものの、その行いと霊性についてはあまり知られていません。右近が残した業績のうち、現代人にとっても参考になる大事なものとしては、その指導力が挙げられます。時代と環境が変わっても、右近の生き様には普遍的な価値があるように思います。

右近は激しく変化する社会の中心に生きた人物でした。戦国時代から信長の統一に向けた動きを身近で支え、信長が暗殺されてからは秀吉に仕え、秀吉没後は、徳川幕府の成立を見届けた武士でした。同盟と謀反が繰り返される動きに巻き込まれながらも、流されずに一本道を歩んだ、例外的な生き方を送った指導者でもありました。敵と味方の見分けが付かない中であっても、右近は誰に対しても自分がキリシタンであり、神父たちの味方であると毅然に示しました。右近の生き方に賛成しない権力者も彼を尊敬しました。自分の領土を失い、追放の身分として東北にいた25年余りの間、キリシタンの教えを伝え続け、受洗した人々を守り抜きました。右近は前田家の好意を受けながら金沢にいる間も、多くの人をキリスト教に導き、洗礼後の教育も続けられるように取り計らいました。その一例として、1604年のイエズス会年報は次のように記しています。自

分も貧困の生活を送る中、受洗することによって生活に困るようになった僧侶の面倒を見ることにしたと。徳川政権から外国に追放される命令が出されたとき、東北にできた共同体に指導者を任命して送り、その存続を図りました。このように、右近は宣教することに止まらず、人々がキリスト教的な生活を送れるように支えました。

当時の報告によると、右近の指導は対話的であったようです。指導者として、人の命に関わるほどの決断をしなければならなかった時に、宣教師の意見を求めたりしました。そして、何よりも、神様との対話、つまり、祈りを大事にしました。ほとんどの報告に、右近は祈りの人、決断力を持った人であるとの評価が出てきます。恐らく、この二つの要素には深い関係があると思います。もし、そうであるならば、右近は現代の私たちに役立つ模範とメッセージを伝えています。つまり、祈りと対話なしに正しい判断ができないように、決断をしない限り充実した祈りができないことを教えて下さっているように思います。

右近の時代や状況と異なっても、私たちには、私たちにしかできない決断と歩むべき道があります。聖イグナチオの霊性に養われる私たちも、彼の取り次ぎによって、信仰の深い共同体を作ることができま

イエズス会日本管区管区長 レンゾ・デ・ルカ

2017年クリスマスミサ

●23日(土・祝日)

14:00 「子どもと家庭のクリスマスミサ」
18:00 「キャンドルサービスとフォークミサ」
※18:00のミサは待降節第4主日のミサではありません。

●24日(日)

17:00・19:00 (手話通訳付き)・21:00
22:30 (英語)

ミサ前に順番にお並びいただく整理はいたしません、安全上入堂を制限する場合があります。また、安全確認のため、各ミサ終了後、主聖堂から全員ご退堂いただきます。

※待降節第4主日ミサ

7:00・8:30・10:00 (手話通訳付き)
12:00 (英語)
13:30 (スペイン語)
18:00のミサはありません。

●25日(月)

7:00・8:30・10:00 (手話通訳付き)
12:00 (英語)
13:30 (スペイン語)
18:00

11月の共同祈願

私たちに与えられているこの命を今日一日、
神のみ旨に合わせて、
誠実に生き抜いていく恵みをお与えください。
死に至る日まで、
悔いのない日々を送ることができますように。

朝の祈りにおいて：恵みを願って一日を始めよう

今日という一日が与えられたことを神に感謝し、
賛美します。
そして、今日一日、
与えられた命を精一杯生きていくことができるよう、
恵みを願いましょう。
今日の命がそのまま神への賛美と奉仕になるように、
また、今日、
具体的に必要な恵みを願いましょう。

晩の祈りにおいて：今日一日をふりかえってみよう

今日一日をふりかえってみましょう。
感謝したいこと、
悔い改めたいことを見つめ直してみます。
さらに、
よき最期(死)を迎えられるように、
神にすべてを委ねて今日一日を締めくくります。

「ミッション2030」— 祈りを深める⑥

さあ、質問して下さい

標題の「さあ、質問して下さい」は、教皇が外国訪問から帰国する途中、飛行機の中で同行記者団とのインタビューを始める前にいつも言われることばです。そしてこれは今月出版される教皇フランシスコの本のタイトルとなりました。

この本はイエズス会系雑誌「ラ・チビリタ・カトリカ」の編集長スパダロ神父が教皇フランシスコのジャーナリストとのインタビューや教皇の宿舎、教皇が「私の小教区」と言う「ドムス・サンクテ・マルテ」(聖マルタの家)での説教などをまとめたものです。

教皇は、初めメディアとのインタビューには慎重だったそうです。しかし喜んでインタビューを受けるようになったのは、インタビューが教会と現代の人びととの対話になると考えたからです。

インタビューのモデルはルカ福音書24章13-35だそうです。復活したイエスがエマオへ向かう二人の弟子に近づき、二人と話を始めて行く箇所です。ポイントは弟子たちからイエスに話しかけたのではなく、イエスのほうから途方にくれ歩いていた二人に話しかけたことです。

私たちが神に祈るとき、多くの場合、神に向かってゆるしを求めたり、心の平安をお願いしたりします。ときには不平や不満も聞いてもらいます。また別のときには請求書的なお願いをしたりすることもあります。このような祈りも必要かもしれませんが、イエスの声を待たずに、つい自分の考えや想いを少しでもはやくイエスに伝えようとしがちです。その結果自分から神への一方通行的なモノログになりすぎているような気がします。

イエスはエマオへ向かう二人に話しかけ、そこから対話が始まりました。私たちもここを整理してイエスが話しかけてくださるのを待つようにしたら、そこから本物のイエスとの対話が始まるのではないのでしょうか。イエスは、きっとどんな時でも、どんな場所でも、「さあ、質問して下さい」と声をかけ、私たちの中に加わり、対話してくださるに違いありません。

栗栖 徳雄

ミッション2030 促進チーム



**JOYFUL ASIAN YOUTH!
LIVING THE GOSPEL IN MULTICULTURAL ASIA**

大会に参加する前、私は「AYDを通して、アジアの国々の信徒の皆さんと親交と信仰を深めたい」という目的意識を抱いていました。政治情勢が乱れる中でも、日本人の一人としてアジアの皆さんともっと仲良くなっていきたいという思いでした。しかし実際にAYDに参加すると、私たちカトリック信徒というのは、国籍を超えた兄弟姉妹なのだということを思い知らされました。AYDの期間中、私たちは出会う人々皆に歓迎してもらいました。あまりにも多くの人と友達になり、本当に多くの人々の愛情をもらいました。その経験を通して、私は「福音を生きるとは、信仰とは、喜びである」ということを心から理解することができました。また、「日本、アジアという、キリスト教とは異なる文化圏でカトリック信徒として福音を生きるとはどういうことか?」という、私の長年の疑問に対する答えや新たな知見を得ることができました。AYDに参加できたことは、私にとっておそらく生涯忘れえない、あまりにも大きな神様からの恵みでした。私たちのために色々な面で支援してくださった



ホストファミリーと、一緒に滞在したインドネシアの信徒と共に

皆様へ、心から深く感謝いたします。このお恵みを、これから日本の教会のために活かしていきたいです。

マリア・クリスティーナ 石村愛子
(エンジェルズ、インターナショナル青年会)

ここは日本じゃない！私自身海外に行くのは初めてでした。ジョグジャカルタに着いて匂いが違うと感じた時、海外に来たことを実感しました。私自身が不安だったのは語学でした。中学と高校で英語を教わっていましたが、話せません。インドネシアに行く前にも少しは勉強しましたが、それでも不安でした。何とか言葉を伝えようと身ぶり手振りで話をしました。ホストファミリーを始め



インドネシアの子ども達と

インドネシアで出会った方々は私の下手な英語でも一生懸命聴いて、理解してくださいました。そして話すときも、ゆっくりそして丁寧に話してくださいました。1人で伝わらないときは二人以上で助け合って伝い合いました。

今回のアジアニュースデーではここには書ききれないすばらしい出来事が沢山ありました。しかし私が改めて確信したことは、人との出会いこそ神様からの最高の贈り物だということです。日本メンバー、ホストファミリー、インドネシアの方々全員が私の宝物です。

このような出会いを頂くことができたのは、間違いなくイグナチオ教会の皆様が派遣として行かして下さったからであることは間違いありません。誠にありがとうございました。

ペトロ クリストフォロス 今田周平
(青年会、元侍者会)

教会黙想会

11月23日(木・祝日) 10時～16時
ーキリシタン時代に学ぶ教会生活のありかたー

ミッション2030を深めていくためにキリシタン禁教
前と後の信仰のありかたを学ぶ

指導：川村 信三 神父

(イエズス会・上智大学史学科教授)

場所：主聖堂

- ・午前 「高山右近時代の教会のありかた」
- ・午後 「潜伏キリシタン時代の教会のありかた」
- ・15時からミサ

クリスマスバザー

11月26日(日)
8時30分のミサ終了後 ～ 15時頃まで

物品頒布(日用品、手芸品、お菓子など)やフードコート、
また教会案内ツアーもあります。

頒布品としての献品の受付は11月12日(日)までです。

★中古衣料と賞味期限切れ食品は不可。

詳細はポスター、チラシにてご確認ください。

今回のバザー頒布金は9月のメキシコ大地震で被災した
当教会セントロ・ロヨラのシスター イベッテが所属する
「御聖体の宣教クララ修道会」へ献金いたします。
みなさまのご支援、ご協力をお願いいたします。

9月・10月の宣教司牧評議会より

- ・2017年クリスマスは昨年同様のミサ回数と人出対応を行う。
- ・クリスマスバザー頒布金の献金先をメキシコ地震に関連し、御聖体の宣教クララ修道会とする。

財務報告

9月24日(日)「世界難民移住移動者の日」の献金
1,344,552円は、日本カトリック難民移住移動者委員会を
通じて、幅広く支援に役立てられます。皆様のご協力に感謝
いたします。

叙階式



9月23日に三人の司祭が誕生しました。みなさんで今後
のご活躍をお祈りしましょう。

写真左から

ファン・デュック・ディン 神父

グエン・タン・ニャー 神父

大西崇生 神父

幼児洗礼式

8月15日(日)・10月8日(日)



お天気にも恵まれ、合わせて17人の子供たちがみなさまに
祝福されて新しい家族になりました。元気に成長してく
ださい。

ミサの時間 Mass

【平日 Weekday】主聖堂 Main Chapel

7:00 / 12:00 / 18:00 (Japanese)

(土曜日 18:00 は主日ミサ)

【日曜日 Sunday】主聖堂 Main Chapel

7:00 / 8:30 / 10:00 / 18:00

(Japanese)

12:00 (English) / 13:30 (Español)

Xavier Chapel 16:00 (Indonesian)

【月の第1日曜日 1st Sunday】

Main Chapel 15:00 (Việt Nam)

Mary Chapel 12:30 (Português)

16:00 (Polish)

主任司祭：佐々木良晴

助任司祭：英 隆一郎

(アルファベット順) ギュンタ・ケルクマン

田丸 篤

協力司祭：平林冬樹

ヘネロン・フローレス

ハビエル・ガラルダ

シスター：イベッテ・サンチェス

(セントロ・ロヨラ)

アヴェリーノ・アウレア・ビスナー

(ジョン・デ・ブリット イングリッシュセンター)

カトリック麴町教会 (聖イグナチオ教会)

〒102-0083 千代田区麴町6-5-1

TEL 03-3263-4584 FAX 03-3263-4585

ホームページアドレス : <http://www.ignatius.gr.jp>